

社会芸術 吉田富久一による “創造性のかたち”

2016年4月30日(土)―5月29日(日)

午前10時から午後6時半 /水曜休み

会場：プラザ・ギャラリー

〒182-0002 東京都調布市仙川町1-24-1
仙川アヴェニュー内

電話：03-3300-1010

FAX：03-3305-7491

email: info@tokyoartmuseum.com

URL: http://www.plaza-gallery.com/

吉田富久一 作品展示 ギャラリー & 特設会場
会期中のイベント ギャラリー前 エントランス

展示会期・イベントスケジュール

4/30土 15:00~ ①クラウン☆ミーナ・パフォーマンス (クラウン・ミーナ + 花方 颯之助)
②「食」のワークショップ「竹パン」 齋守和佳子+加藤 学「秋田のお米・味噌タレおにぎり」 杉山 正人、ほか
17:00~18:30 ③オープニングパーティー

5/1 日
5/2 月
5/3 火
5/4 水 休
5/5 木
5/6 金

5/7 土 13:00~ 世界小屋会議 “開け裏カフェ” ワークショップ① “縄文の開け裏研究”と“お点前”
森山 哲和 (考古造形研究所) + 長谷川 律子 (茶道家) + 「漆土器」長谷川 千賀子、ほか来場者 *参加者募集

5/8 日 13:00~ 世界小屋会議 “開け裏カフェ” ワークショップ② “縄文の開け裏研究”と“お点前”
森山 哲和 (考古造形研究所) + 長谷川 律子 (茶道家) + 「漆土器」長谷川 千賀子、ほか来場者 *参加者募集

5/9 月
5/10 火
5/11 水 休
5/12 木
5/13 金

5/14 土 15:00~ 世界小屋会議 (ミニ・シンポジウム)「地球の未来 “環境を考える”」
多田 謙 (国立環境研究所) + 井上 寿一 (多摩市民環境会議)、ほか来場者 *参加者募集

5/15 日 13:00~ワークショップ “「まちに鉱山あり」炭火によるアルミ鋳造に挑戦” *参加者募集

5/16 月
5/17 火

5/18 水 休
5/19 木
5/20 金

5/21 土 15:00~ 世界小屋会議 (ミニ・シンポジウム)「土壌について考える」
峰岸 久雄 (造園家) + 鈴木 孝一 (生物工学・ISTA)、ほか来場者 *参加者募集

5/22 日 13:00~ ワークショップ「田圃の主と井戸掘りの土でつり、炭火で焼成する“小さな土偶”」 古川 勝紀 (画家) + 社会芸術 *参加者募集

5/23 月
5/24 火
5/25 水 休
5/26 木
5/27 金
5/28 土

5/29 日

協力者：

峰岸 久雄	造園家
鈴木 孝一	生物工学 (ISTA)
多田 謙	国立研究開発法人 国立環境研究所 主任研究員
井上 寿一	多摩市民環境会議
森山 哲和	考古造形研究所
長谷川 律子	茶道家
齋守 和佳子	造形作家 (やまんば企画室)
加藤 学	デザイナー (やまん B)
クラウン☆ミーナ	造形師
花方 颯之助	MC
杉山 正人	秋田の農民芸術家
古川 勝紀	画家
鈴木 一	養蜂家 (坊ノ内養蜂園)
天沼 一志	川越野焼きチーム
安部 大雅	真鍮家
宮下 貴史	プランナー 社会芸術
吉川 信雄	映像作家 社会芸術
長谷川 千賀子	造形作家 社会芸術

協力団体：

NPO 法人 科学芸術学際研究所 ISTA
多摩市民環境会議
TEN TO MIRAI association (代表：師井栄治)

企画：社会芸術 /SOCIAL ART
主催：プラザ・ギャラリー /Plaza Gallery

15年前に可動式仮設店舗の展開から始まった活動は、その後自力更生車を押し、ゲルを担いで各地へ出向き、その都度、協働者を伴った。里山に設けた炭焼窯を駆使し、炭を焼き土器を焼いても、それを使う相手との共有が意識される。

窯場には電気・ガス・水道は無く、あるものは赤土と山砂、気流に乗ってもたらされる天水、そして竹林である。だが、生命の息吹と人の気配は介在する。

周囲の畑に散在する縄文の遺物に刺激を受け、改めて火焰土器や焼町土器に注目して、驚いた。中空構造の突起は空冷式で、火種を入れたまま素手で持ち運べるし、天を仰ぐ頂点は水平に並び、陶板や石皿を乗せて調理に適う五徳を果すではないか。そこで、農や食に関わる土器をつくり、炭窯で素焼を試みた。まずは「土器火鉢」、つづけて「狼煙砲」や「粉殻炊飯土器」と様々に縄文的触手が働いた。

土器は台車に乗せ展示、穏やかな日和には庭へ押し出す。里山で採取したドングリや農家から提供を受けた収穫物を炭火で煮炊きし食すと、またもや協働の必然に歓喜することだろう。閉塞する近代文明の行く先を案じ、未来への生き方について来場者とともに語り合う。

このような働きかけの共有を“創造性のかたち”とした。

社会芸術/造形作家 吉田 富久一

吉田 富久一 (よしだ ふくいち)

1953年 群馬県富岡市生まれ
1978年 多摩美術大学大学院修了

山岳地での生活経験を通じ、自然(じねん)に在る絶対造形としての抽象を感じ、制作活動を開始した。芸術の根源に自然を置く。金子英彦氏より芸術の社会性への示唆を授かる。'87にアートハウスを設立。〜'01年まで企画活動。'98「ようこそアートハウスへ」出版。'00年「群馬における戦後・前衛美術運動の軌跡と行方」執筆・出版。'02年プラザ・ギャラリー「社会芸術展 “THE 市場”」企画に当たり「社会芸術」を設立。“創造性の共有”を標榜してユニット活動を開始。'11「自力更生車の旅」、'12「東西見聞録」、'13「ウルスの泉」にまとめ出版

展覧会

- 1981年 第15回現代日本美術展 (東京都美術館、他) 京都国立近代美術館賞
- 1992年 アートは楽しい (ハラ ミュージアム アーク/渋谷市)
- 1996年 日本の現代美術 “自然-素材と表象” (エルサレム・アーティストハウス、エンハーロット美術館/イスラエル)
- 1998年 第7回ペーパーアートワークス国際ビエンナーレ “ペーパーアート7” (レオポルド・ホェーシ美術館/ドイツ)
- アートハウスの10年展 (ノイエス朝日、ペーパーテック1/前橋)
- 1999年 TOSA-TOSA' 99 (高知県立美術館)
- 2002年 社会芸術展 “THE 市場” (プラザ・ギャラリー & 野外展示場/調布市)
- 2007年 第1回神戸ビエンナーレ 2007 (メリケン波止場/神戸市)
- 2008年 (THE PAPER) 展 (ジュビエル美術館、ソンバウイ美術館/ソウル、韓国)
- 2012年 社会芸術 “ウルスの泉” (プラザ・ギャラリー & 野外展示場/調布市)
- 2013年 “もみ殻野焼き” と現代アート: 現場展 (川越の田圃/川越市)
- 2015年 ISTA ビエンナーレ (いりや画廊/上野)

作品収蔵：

京都国立近代美術館、群馬県立近代美術館、高崎市美術館、エン・ハロット美術館 (ISL)、レオポルド・ホーネ美術館 (DEU)、玉村町平和モニュメント (群馬県)、他

*お問い合わせ

参加お申込先： 〒206-0033 多摩市落合 2-7-1-205 携帯 090-8301-5811
メール: pwd4tut2ev@mc.point.ne.jp 社会芸術/吉田



社会芸術 ユニット・プラザ